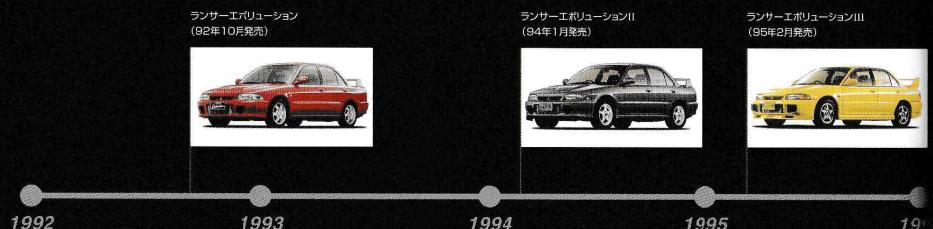


# 「進化」と「熟成」を重ね続け、次なるステージへ

1992年10月、世界最高峰のラリーレース、WRC（世界ラリー選手権）での勝利を目指した究極のラリーカーが誕生した。レースに有利なコンパクトなボディに、「名器」4G63型エンジンを搭載したそのラリーカー、「ランサー エボリューション」は、以後幾世代にもわたって進化と熟成を重ね、やがてWRCを制したチャンピオンカーとして、世界にその名を轟かすことになる。初代モデル誕生以来、15年間にわたって三菱自動車が研ぎ澄ましてきた技術の粋を、今ここに振り返ってみよう。



1992 1993 1994 1995 1996

## 1st-Generation



- VCU付センターデフ方式  
フルタイム4WD+リヤVCU式LSD
- リヤ1.5WAY式LSD
- フロントVCU式LSD（オプション）



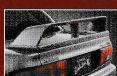
- ナトリウム封入中空バルブ
- 大容量インタークーラー
- 空冷式オイルクーラー



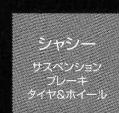
- 吸排気バルブリフト量アップ
- マフラー排圧低減
- 圧縮比9.0へアップ
- 2次エア導入システム



- アルミ製エンジンフード
- 大型リヤスポイラー
- 大型フロントバンパー  
エクステンション
- 大型リヤスピライバー&ウインカー
- ブレーキ冷却エアダクト
- リヤウィッカーパーツ



- フロントバンパーエクステンション
- 大型サイドエアダム
- 大型リヤスピライバー&ウインカー
- ブレーキ冷却エアダクト
- トランスマウントリヤマウント



- マクファーソンストラット式独立懸架（フロント）/マルチリンク式独立懸架サスペンション（リヤ）
- 205/60R15タイヤ&OZ社製アルミホイール
- 14インチディスク（リヤ）
- 195/55F15タイヤ&アルミホイール



## 1992~2007 「ランサー エボリューション」技術進化史



1997

1998

1999

2000

2001

## 2nd-Generation



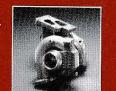
- AYC（アクティブ・ヨーコントロールシステム）

- フロントヘリカルLSD



- ゾインクロロルターボチャージャー
- 錫造ピストン
- メタルシリンダーヘッドガスケット
- 大口径エキゾーストパイプ

- ターボチャージャーのノズル面積拡大
- ピストン軽量化



- チタンアルミ合金製タービンホイール
- コンプレッサー入口径拡大
- クーリングチャンネル付ピストン
- 大型オイルクーラー採用



- デルタ型ウィッカーハンドル
- フロントエアダム
- サイドエアダム
- リヤエアダム



- デルタ型ウィッカーハンドル
- アルミ製フロントフェンダー



- 新形状フロントエアロバンパー
- ウィンカータイプ仰角調整式ツインリヤスポイラー



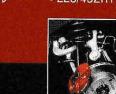
- マルチリンク式独立懸架サスペンション（リヤ）
- リヤアップバーフレームをアルミ鍛造化
- 16インチ/15インチペングルーテッドディスク（フロント/リヤ）
- 205/50R16タイヤ&OZ社製アルミホイール



- フロント倒立式ストラット
- フロントアーバームをアルミ鍛造化
- brembo社製17インチ対向4ポッドキャリパー（フロント）/16インチ対向2ポッドキャリパー（リヤ）
- 225/45ZR17タイヤ&OZ社製アルミホイール



- ロアアーム、トレーリングアーム、トーンコントローラームをアルミ鍛造化
- OZ社製高剛性1ピースアルミホイール



57